





# 革命戦争への前進か 革命戦争への敵対か

ね部 I. 71年秋期斗争と70年代斗争の異同 見価 ¥300  
II. 二つの日米主義を論ずる 戦斗的  
ファシズム精神を再生せよ 日何西田  
一張批判

カマ部 I. 戦後遷移期世界の基本的動向と激化する  
国際国内情勢  
II. 帝国主義の新植民地主義、反共排外主義、  
攻撃と斗争を論ずる 人民と連帯し、日帝の  
侵略反革命を打破し、世界革命戦争へ  
III. 戦後植民地主義、人民と連帯し、帝国主義的  
労働運動を武力で突破せよ

特別報告  
夏東と高民間を新阻止し、国内職業者(産  
業)の結集、東部部の差別行政を糾弾せよ

# 前進のために

見価 ¥300

- I. レニン主義的非法党建設における  
71年国際主義的組織の任務
- II. 農業組織を中心としたレニン革命戦略の  
検討
- III. 労務解放斗争の前進のために
- IV. 女性解放斗争の前進のために

人民の救出を拒絶する革命的  
人権に提出されなければならない。

判」「国家と革命」等の原理的枠組にか  
てしか自分の現在の勢力(軍制統一戦線形  
成)の必然性を論じしえなかつたのである。  
七〇年の発展期は多岐の戦線が、また  
それを担った組織が今日つぎまたつてい  
る事実はそのサリタ主義、個人的英雄主義  
技術主義等々、戦後民主主義を根本的に感  
ることのできなかつた限界によつてもた  
らされたものである。その意味において  
は「アラブ赤軍」の存在は「より大きな因  
難」からの逃避としてうつりながらも、敵  
階級からのも、また同じくプロレタリア  
階級の武装の前進をめぐり内部でも大  
きな思想的衝突をあたえているのである。

われわれは、こうした戦線の結核を、そ  
の思想的側面、戦術、戦術的地位、技術的  
領域において深化せよとつて現在の階級闘争  
の混乱を一層深くうらむべきとしてい  
かねばならない。

今日の帝国主義的超過剰利潤出のからく  
り、民族的抑圧をほろりと、殊々  
前近代の諸関係の帝国主義の下への再編成  
をテコとして形成されており、被抑圧者  
はより過酷な生活が、差別と分断の悲惨な  
現実がもたらされてあり、遂にそこ  
にこそ抑圧されたものが解放を求めた。た  
かひの原点が形成されているのである。

戦後帝国主義世界の見せかけの安定にも拘  
わらず、ベトナム、中東、アフリカ、南ア  
メリカ等の第三世界は陥落することなき  
戰場として、革命と反革命、侵略戦争と解  
放戦争の激突の場として登場している。  
あるキューバ革命等を代表として戦後世  
界を切り開く勢力はますますこの第三世界  
の内部から帝国主義世界を風刺しつつある。

したがって、われわれはこうした九か  
かに思想的連帯を表明することにたまたま  
なく、具体的たにかいて結合するこ  
とをめざさなければならぬ。反戦、平和  
など見せかけの安定に基礎をおく運動  
としてではなく、日常不漸にくりひるげら  
れながら存在する基地、日本安保条約を根拠  
として存在する基地、経済危機、殺りく、  
破壊兵器製造等の現実をくつがえす手段と  
して七〇、七一年闘争の総括は深化されね  
ばならず、非公然、非合法に反対の表  
現されるプロレタリアートの階級闘争を  
強化しなければならぬのである。

いかなる敵の攻撃も、大衆的デモや、抗  
争行動によつてはらうらぶらうらぶにできず  
ましてや、新の死傷をかけた攻撃をそれら  
によつて阻止できるなら、相模原からのタン  
ク撤出にみられたことと全く同様の事であ  
る。

武装と軍事技術の日常の所得により、決  
定的闘争の決定的行動によつてそれを解体

せん成する以外ないのである。ベトナム人  
民の生血を吸うタンクの撤出を全くの合法  
市民主義的自然発生の枠におしとめて  
しまったこと、これこそ、それとも  
既成の「新左翼」もまた真切に転化した  
現実を見ることのできるものである。七一年  
にあれほど語り回った爆撃音がそこにはた  
だの一度もきこえなかつたこと、ただ一人  
の死者、ただ一人の英雄を生みださなかつ  
たこと、これをこそ、われわれは深く反省  
しなければならず、ベトナム人民への「血  
債」として形を示さなくてはならない。

七一年の「武装闘争派」はこうし  
て自らのアリのパイの取平にたとえられ  
て、すんで新次元を切り開かなければなら  
ないのである。

とりわけ、花火ほどの「〇〇」を仕掛け  
たことを唯一、「光りものにして」「武装闘争  
派ぶつたり、また自らの仕掛けた「〇〇」  
がまさに自らの思想的、技術的未熟の故に  
「バタハツ」しなかつたことを遺憾とし  
「被弾批判」に動揺する多くの「七一年  
戦士」の横行のなかで、われわれははつき  
りと武装闘争を奨励させる立場からこの総  
括を提出していかねばならない。いまや  
回避不可能の矛盾に達し、崩壊の瀬戸際  
にたされた帝国主義者、とりわけ日本  
帝国主義の心臓を貫く、プロレタリアート  
革命の階級にむけて、社、共のブルジョ